

チャレンジ精神に満ちた
パッケージングソリューション・プロバイダー

2020年12月期第1四半期決算説明資料

資料構成

1. 2020年12月期第1四半期トピックス
2. 2020年12月期第1四半期業績概要
3. 参考資料



1. 2020年12月期第1四半期トピックス

1Q業績

2018年からの化粧品容器の品不足状況に起因する先行調達への反動に加えて、新型コロナウイルスによる中国国内の事業活動停止の影響などもあり、売上高は34億25百万円（前年同期比14.0%減少）、営業利益は3億40百万円（前年同期比17.1%減少）となりました。

TOGETHER LAB オープン



2018年に建設に着手したTOGETHER LABは2019年9月に竣工し、お客様と共にパッケージを創り上げていく「共創開発拠点」とするための準備を進めており、2020年4月にオープンいたしました。

各フロアを ①プロトタイプ ②展示ルーム ③実験・測定・工作にエリア分けし、デジタルとリアルの技術を融合し、アイデアやイメージをカタチにしていくプロセスを通じ、お客様と未来のブランドイメージを共有し、新たなパッケージ文化の創造を目指してまいります。



なお、プロトタイプ、実験・測定・工作エリアは製品開発を目的とした社内での運用を開始していますが、日本国内の緊急事態宣言の発令により、お客様のご来場予定は延期させていただいております。

1. 2020年12月期第1四半期トピックス

新型コロナウイルスによる 事業活動への影響について

当社グループにおける1Q及び現時点での新型コロナウイルスの影響は、以下の通りです。

【生産関連部門】 — 現状、生産活動は継続

日本 : 工場全拠点で衛生管理を徹底し生産活動を継続。

中国 : 中国2工場は地方政府からの新型コロナウイルス感染拡大抑制指導に従い、春節後から2月中旬にかけて稼働を停止。
3月下旬にはほぼすべての従業員の職場復帰が可能となり、通常通りの水準で生産稼働できる状態となる。

インド : 3月下旬から全土でロックダウン中も、4月以降衛生関連製品を生産中。
従業員は当番制、シフト制とし感染予防に努める。

【営業関連部門】 — 感染予防に留意し、顧客対応を継続

日本 : 在宅勤務と時差通勤を活用。Web会議や電話会議を活用し営業を継続。

中国 : 2020年2月9日まで営業停止。現時点では通常通り営業を継続。

インド : 在宅勤務やWeb会議の活用による営業活動を継続。

欧米 : 在宅勤務やWeb会議の活用による営業活動を継続。

1. 2020年12月期第1四半期トピックス

新型コロナウイルスによる 業績への影響について

新型コロナウイルス感染症による当社グループの業績への影響につきましては、本日発表している2020年12月期第1四半期決算の内容の通り、中国子会社において事業活動停止による売上高減少の影響が発生していますが、本日時点で営業活動並びに生産活動は継続して稼働しています。

当社製品への需要について、2020年第1四半期時点では、衛生関連製品向けの需要は増加しておりますが、今後の世界経済への影響や当社グループが事業活動を行っている各国政府の規制等、不確定要素が多く存在していると認識しています。

現時点では、当社が2020年1月31日に公表した2020年12月期の連結業績予想（通期及び第2四半期）については、修正はありません。

今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかにお知らせいたします。

資料構成

1. 2020年12月期第1四半期トピックス
2. 2020年12月期第1四半期業績概要
3. 参考資料



2. 2020年12月期第1四半期業績概要

2020年12月期第1四半期連結決算ハイライト

- ・2019年第1四半期までの化粧品向け容器需要増に対する反動減の影響が大きく、前年比は大幅減収。
- ・計画比では国内の化粧品向け新規案件獲得が増加。リピート需要も回復基調。新型コロナウイルス感染予防対策による除菌用途の需要も増加。一方、中国での事業活動停止期間の影響があり売上高は計画比未達。

| | 2019年第1四半期 (1-3月期) ¥16.33/RMB ¥110.22/USD | 2020年第1四半期 (1-3月期) ¥15.59/RMB ¥108.86/USD | 前年同期比 | | 2020年計画比 | |
|----------|--|--|-------|--------|----------|--------|
| | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | | 百万円 | |
| 売上高 | 3,981 | 3,425 | ▲ 555 | ▲14.0% | ▲ 67 | ▲1.9% |
| 営業利益 | 410 | 340 | ▲ 70 | ▲17.1% | + 85 | +33.6% |
| 売上高営業利益率 | 10.3% | 9.9% | ▲0.4P | — | +2.6P | — |
| 経常利益 | 427 | 327 | ▲ 99 | ▲23.4% | + 69 | +27.0% |
| 四半期純利益 | 287 | 212 | ▲ 75 | ▲26.1% | + 47 | +28.9% |
| 減価償却費 | 267 | 264 | | | | |
| 設備投資額 | 569 | 120 | | | | |
| (うち 金型) | 164 | 69 | | | | |
| EBITDA | 677 | 604 | | | | |

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

地域別グループ企業業績

日本

百万円

| | 2019年第1四半期 | 2020年第1四半期 | 前年同期比 | | 計画比 | |
|------|------------|------------|-------|-------|------|--------|
| | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 3,120 | 2,814 | ▲306 | ▲9.8% | +165 | +6.2% |
| 営業利益 | 329 | 315 | ▲13 | ▲4.1% | +106 | +50.9% |

売上変動要因

- ① 2019年第1四半期までの化粧品向け容器需要増に対する反動減の影響が大きく、前年比では大幅減収。
- ② 化粧品向け新規案件は順調に獲得。リピート需要もやや回復。
- ③ 新型コロナウイルス感染予防対策で除菌用途の需要が増加。

利益変動要因

- ① 付加価値の高い機能性製品の取扱いと他社製品販売金額の減少が粗利益率向上に寄与。
- ② 樹脂原材料価格は、原油価格が上昇せず想定以下で推移し前年同期比で6百万円負担減。
- ③ 販管費は想定内に収まり、粗利額の増加により営業利益は計画比大幅増加。

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

地域別グループ企業業績

中国 ※（）内はRMBベース

百万円
(百万元)

| | 2019年第1四半期 ¥16.33/RMB | 2020年第1四半期 ¥15.59/RMB | 前年同期比 | | 計画比 | |
|------|--------------------------|--------------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|
| | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 865 (52) | 604 (38) | ▲260 (▲14) | ▲30.1% ▲26.8% | ▲235 (▲13) | ▲28.0% ▲26.1% |
| 営業利益 | 121 (7) | 56 (3) | ▲65 (▲3) | ▲53.8% ▲51.6% | ▲31 (▲1) | ▲36.2% ▲34.5% |

売上変動要因

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響で2月上旬の営業活動と生産活動が停止。
- ② 営業活動再開後、顧客からの需要が増加するものの停止期間の影響により売上高は前期比計画比とも大幅減少。

利益変動要因

- ① 売上高の減少に伴い粗利益額が減少。
- ② 中国政府の政策により人件費、社会保険料負担が軽減され営業利益の黒字は確保も、前期比計画比で大幅減。
- ③ 樹脂原材料価格は原油価格の低下により、前年同期比で9百万円負担減。

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

地域別グループ企業業績

その他地域

百万円

| | 2019年第1四半期 ¥110.22/US\$ ¥125.16/€ ¥1.57/INR ¥3.49/TB | 2020年第1四半期 ¥108.86/US\$ ¥120.08/€ ¥1.51/INR ¥3.48/TB | 前年同期比 | | 計画比 | |
|------|--|--|-------|-------|-----|--------|
| | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 61 | 59 | ▲1 | ▲2.9% | ▲26 | ▲31.1% |
| 営業利益 | ▲41 | ▲34 | +7 | - % | +8 | - % |

現状、今後の見通しなど

- ① インドは引き続き、製作中の金型の立上遅れもあり、売上は計画未達。
自社金型の投入増加による売上確保方針に方向転換するも3月下旬から全国土ロックダウン。
生産は衛生関連製品製造の許可を得て4月より再開中。
- ② オランダは顧客からの引合は増加するも売上に至らず計画未達。現地での顧客からの引合対応の向上策検討。
また、環境問題に関する情報収集活動と生産委託先の生産は継続。
- ③ アメリカは大口顧客への販売確保し、1 Q計画は達成するもN Y州の外出禁止令により活動制限あり。
今後は日本、中国からの製品輸送の確保が課題。

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

区分別販売実績

販売先の主要事業内容ごとの販売実績

- ・前期比の売上減少は化粧・美容区分が中心。
- ・食品・健康食品区分も実質化粧品向け需要の減少による影響大。
- ・衛生関連用途向け需要により、日用・雑貨、化学・医薬区分で売上増加。

| 区分 | 2019年第1四半期 | | 2020年第1四半期 | | 増減 | |
|---------|------------|-------|------------|-------|------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 比率 |
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 化粧・美容 | 2,415 | 60.7 | 1,955 | 57.1 | ▲459 | ▲19.0 |
| 日用・雑貨 | 189 | 4.8 | 209 | 6.1 | +20 | +10.6 |
| 食品・健康食品 | 351 | 8.8 | 280 | 8.2 | ▲70 | ▲20.1 |
| 化学・医薬 | 187 | 4.7 | 187 | 5.5 | +0 | +0.5 |
| 卸、その他 | 837 | 21.0 | 791 | 23.1 | ▲46 | ▲5.5 |
| 合計 | 3,981 | 100.0 | 3,425 | 100.0 | ▲555 | ▲14.0 |

※上記区分は販売先の主要事業内容により分類したものであり、販売先における実際の用途と上記区分名称は異なる場合があります。

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

区分別販売実績

製商品の内訳ごとの販売実績

- ・国内、海外ともに全体的な売上金額減少はあるものの、スタンダードボトル構成比は上昇
- ・中国では大口のカスタムボトル需要が強く、前期並みの売上金額を確保。

| 区分 | 2019年第1四半期 | | 2020年第1四半期 | | 増減 | |
|---------------------|------------|-------|------------|-------|------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 比率 |
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 自社製品 (スタンダードボトル) | 2,933 | 73.7 | 2,611 | 76.2 | ▲322 | ▲11.0 |
| 顧客金型製品 (カスタムボトル) | 344 | 8.7 | 288 | 8.4 | ▲56 | ▲16.3 |
| 他社製品 | 629 | 15.8 | 472 | 13.8 | ▲156 | ▲24.9 |
| 材料その他 | 73 | 1.9 | 53 | 1.6 | ▲20 | ▲27.6 |
| 合計 | 3,981 | 100.0 | 3,425 | 100.0 | ▲555 | ▲14.0 |

※上記区分は以下により分類しています

自社製品： 当社所有の金型を用いて生産した製品（スタンダードボトル）

顧客金型製品： 顧客が金型費用を負担している製品（カスタムボトル）

他社製品： 顧客の要望等により他社から仕入れた品物

材料その他： カメーカーへの原材料を販売した物等

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

金型（新製品）開発状況

当社はパッケージングソリューション・プロバイダーとしてより多くの顧客に利用いただけるボトルや付属品の品揃えを充実させ、さらに顧客商品の価値を高めるカスタマイズ（着色、印刷などの加飾）を行うことで世界の器文化に貢献しています。

このためスタンダードボトル容器の成形に不可欠な総金型数及び年間の金型製作数はKPIの一つとして重要視しています。現在進行中の中期経営計画においては、内容物の価値と個性化を高めるデザイン、優れた機能性、技術、そして高い信頼性を備えた ボトルパッケージ を顧客に提供していく「Standout な価値創造」を目指した開発にも注力することとしています。

2020年第1四半期の金型製作の進捗状況（新規製品の増加の状況）は下表のとおりです。

| | 金型数 | | |
|------|---------------------|-----------------------|-------------|
| | 2020年第1四半期 完成金型数 | 2020年第1四半期 保有金型累計数 | 製作中 |
| 日本 | 20 (3) | 2,342 | 41 (13) |
| 中国 | 4 (5) | 1,168 | 62 (10) |
| インド | 2 (7) | 54 | 39 (8) |
| オランダ | - (-) | 21 | 17 (-) |
| 合計 | 26 (15) | 3,585 | 159 (31) |

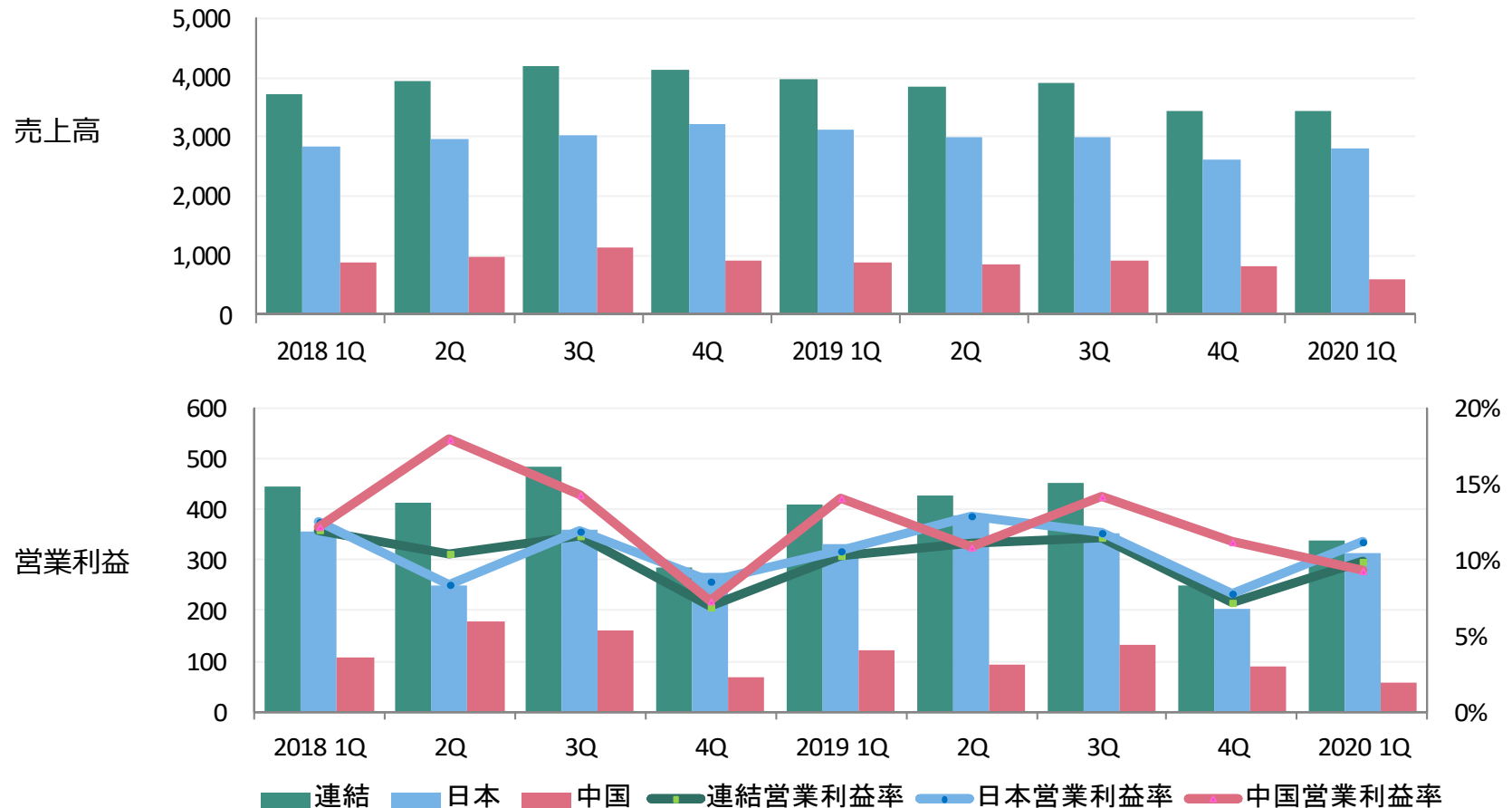
※表の（ ）はカスタムボトル用金型（外数表示）

2020年3月末時点での自社金型数は**3,585型**となっている。

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

2018年以降の四半期業績の推移

単位：百万円

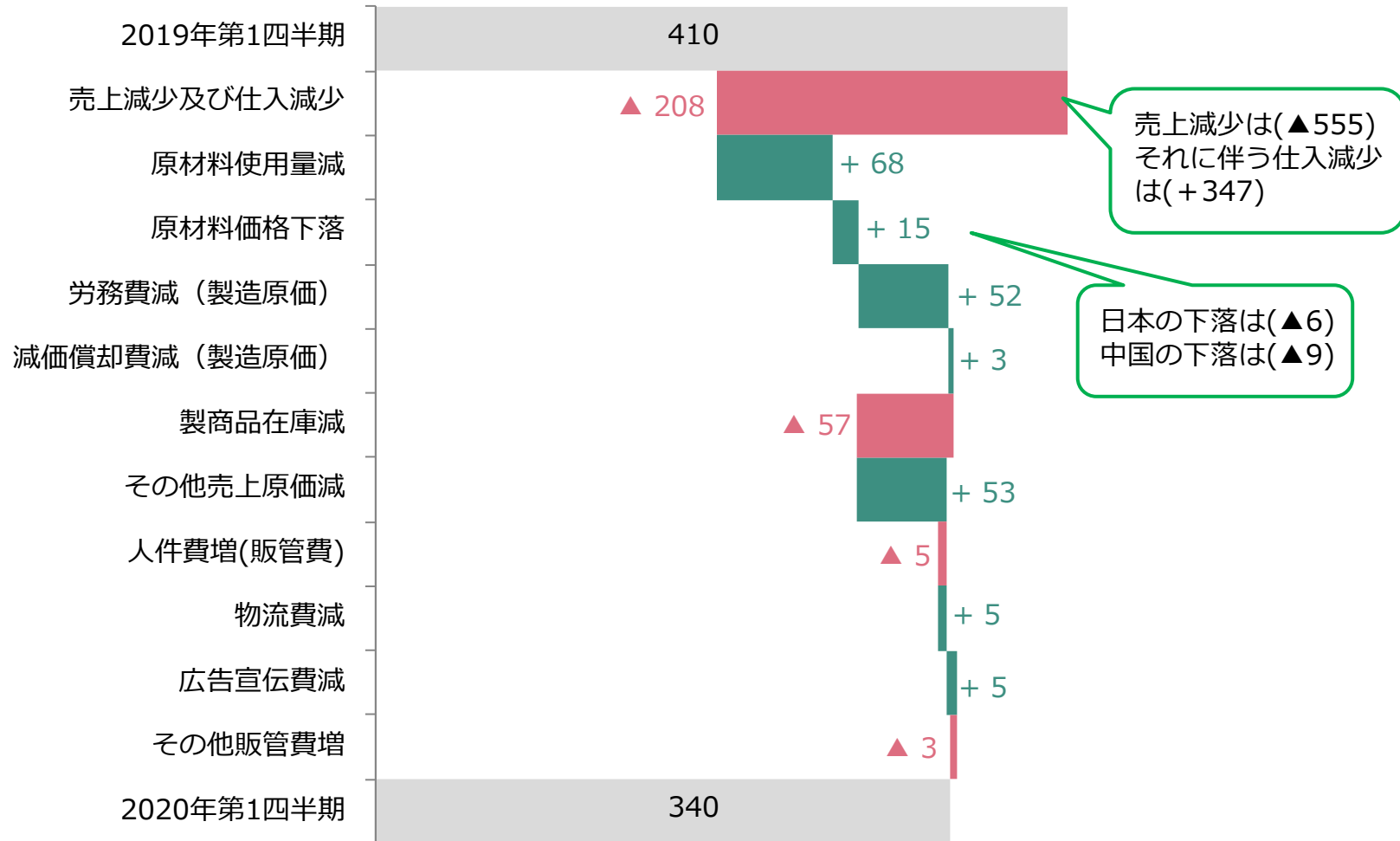


※日本、中国はそれぞれ当該地域のグループ企業業績を示している

2. 2020年12月期第1四半期業績概要

2020年12月期第1四半期 営業利益の変動分析

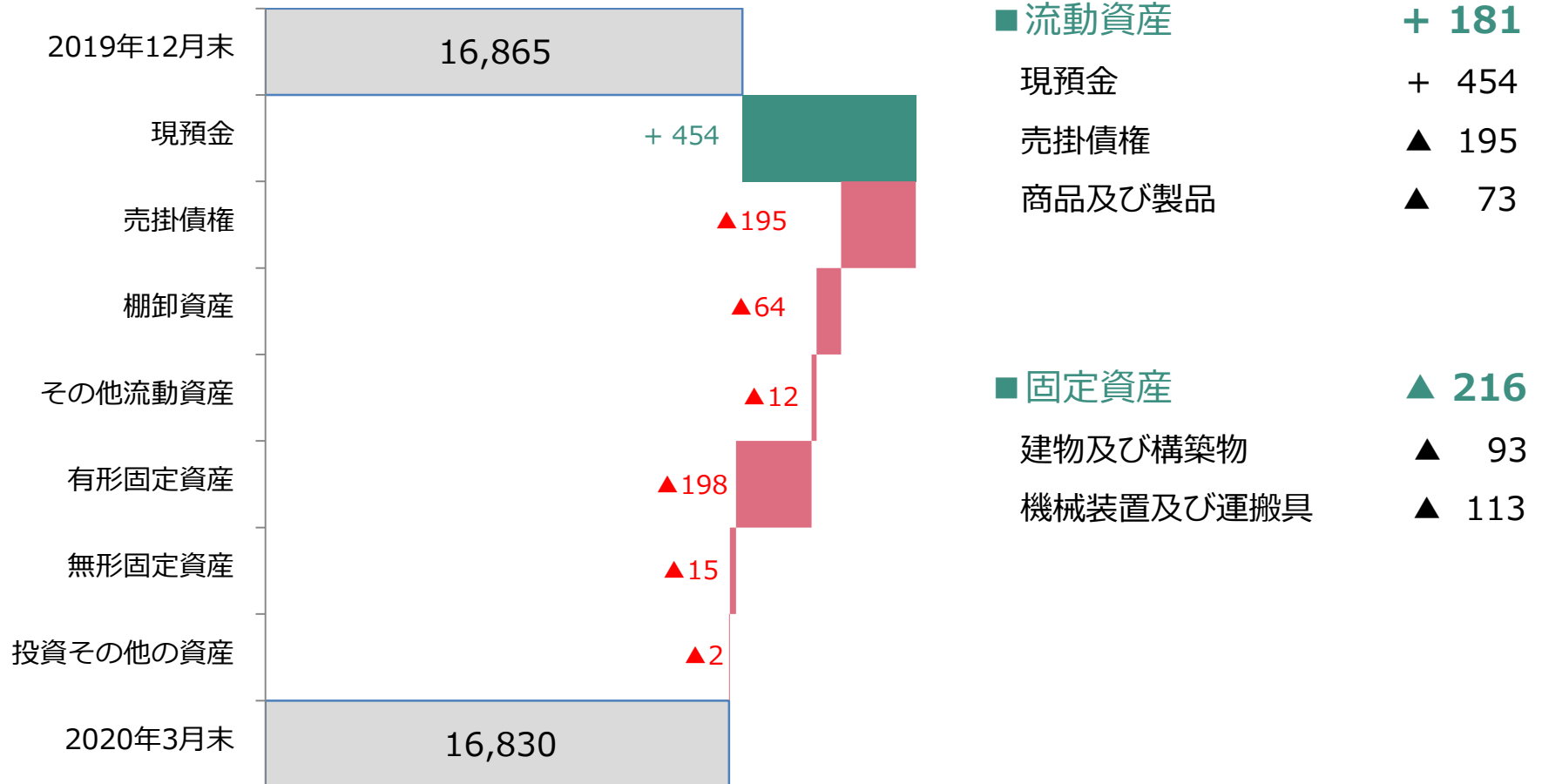
単位：百万円



2. 2020年12月期第1四半期業績概要

2020年12月期第1四半期 連結貸借対照表 資産の部

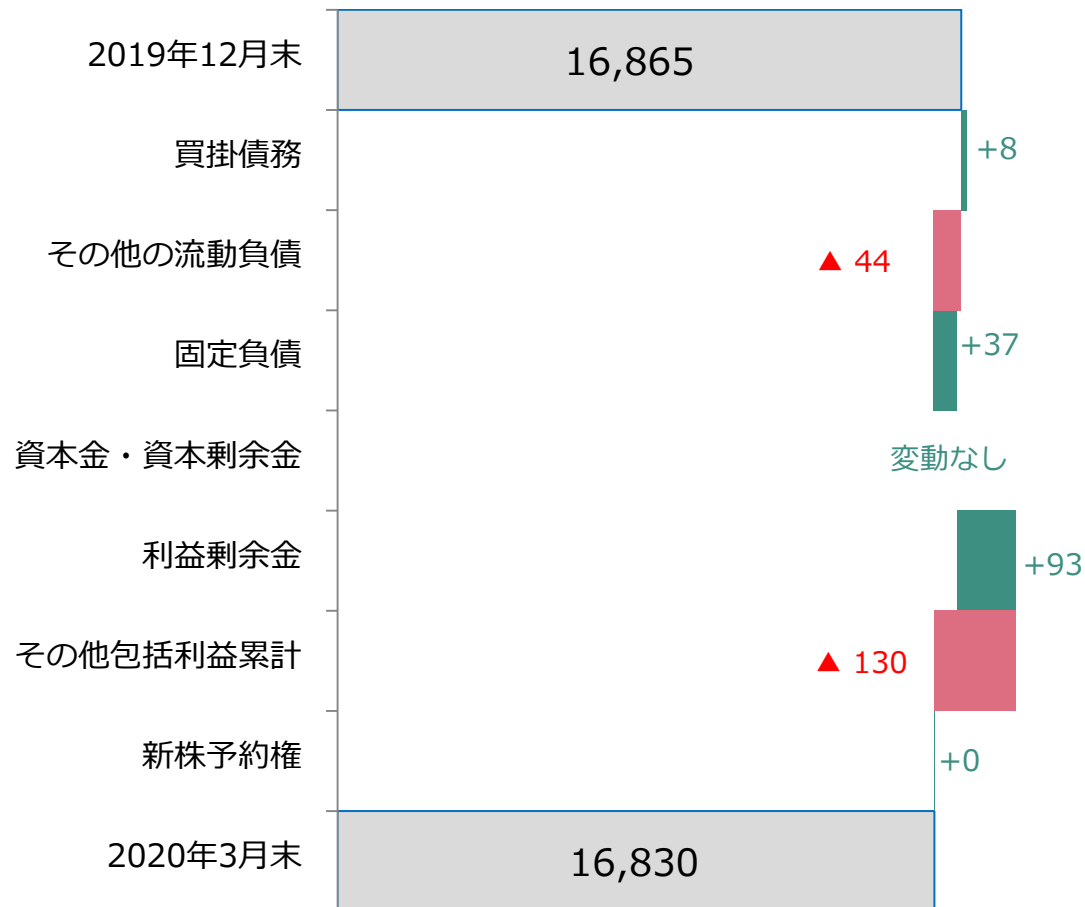
単位：百万円



2. 2020年12月期第1四半期業績概要

2020年12月期第1四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

単位：百万円



| | |
|-------------------|-------------|
| 流動負債 | ▲ 36 |
| 支払手形及び買掛金 | + 16 |
| 電子記録債務 | ▲ 8 |
| 1年内返済予定長期借入金 | + 18 |
| その他 | ▲ 63 |
| 固定負債 | + 37 |
| 長期借入金 | + 29 |
| (うち、長期借入金による資金調達) | (+ 200) |
| 純資産 | ▲ 36 |
| 利益剰余金 (当期純利益分) | + 212 |
| (配当金支払) | ▲ 119 |
| 為替換算調整額 | ▲ 130 |

資料構成

1. 2020年12月期第1四半期トピックス
2. 2020年12月期第1四半期業績概要
3. 参考資料





竹本容器株式会社
代表取締役社長

竹本 笑子

会社名

竹本容器株式会社

Takemoto Yohki Co., Ltd.

設立年月

1953年5月19日（昭和28年）

代表者

代表取締役社長 竹本 笑子

所在地

東京都台東区松が谷2丁目21番5号

事業内容

プラスチック製等の包装容器の製造及び販売

資本金

8億342万1,725円（2020年4月30日現在）

発行済株式数

12,529,200株（2020年4月30日現在）

単元株主数

11,676名（2019年12月31日現在）

グループ従業員数

952名（2019年12月31日現在）

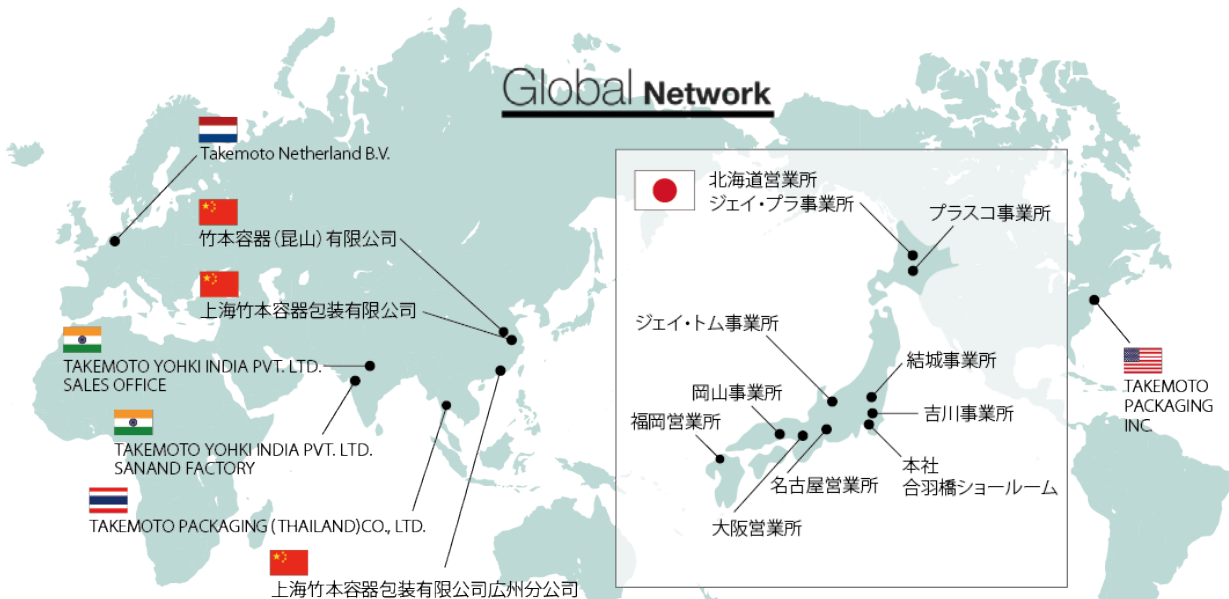
上場市場

東京証券取引所市場第一部

[証券コード：4248]

ホームページ

<http://www.takemotokk.co.jp>



本社



合羽橋ショールーム



大阪営業所・ショールーム



福岡営業所・ショールーム



名古屋営業所・ショールーム



北海道営業所



TOGETHER LAB



JQA-FC0115
結城事業所
食品用プラスチック
包装容器の製造
(印刷製品は除く)

本資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時において当社が各種情報により判断した情報ではありますが、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は、今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありません。投資を行う際は、ご自身のご判断で行って頂きますようお願い申し上げます。

“Standout”な価値創造

Standoutな価値創造